

令和４年度 事業計画

新型コロナウイルスの感染拡大から３年が経過したが、この間も感染拡大を繰り返し観光関係事業者への影響は極めて大きいものとなっています。このような中、富山県の県民宿泊割引キャンペーン等の取組みにより観光需要の回復が見られたものの、感染症の終息は見通せず観光を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。

このため、当機構としても、３密（密閉、密集、密接）の回避などの感染症対策の徹底を意識して事業を展開するとともに、デジタル技術を活用した情報発信、近隣の観光地等を訪れるマイクロツーリズムや、定番の観光地だけでなく各地域の魅力的な観光資源の掘り起こし・磨き上げに積極的に取り組めます。

また、令和６年春の北陸新幹線の敦賀開業や令和６年度の黒部ルート的一般開放を見据え、引き続き、切れ目のない観光ＰＲの展開と地域の魅力発信を行い、さらなる観光交流人口の拡大を目指します。

- １ デジタル技術を積極的に活用し、
 - （１）ＳＮＳ広告やインフルエンサーを活用したＰＲなどを通じて、効果的に富山県の魅力発信を行う。
 - （２）令和３年度に富山県の観光アプリ（Discover Toyama）に追加したコンテンツ「とやま絶景フォトスポット」の周知を進め、スポットをはじめ県内への誘客を図る。
 - （３）県内の宿泊施設を対象にデータ収集分析を行うシステムの導入により、参加施設や県全体において的確なデータ分析が可能となり、戦略的な誘客対策に活用する。
- ２ 令和３年度に立ち上げた観光土産品プロジェクトチームで協議のうえ、土産品のブランド力向上等を図る取組みを行う。
- ３ 県内産業観光を組み入れたツアーへの助成を実施し、産業観光の推進を図る。
- ４ 県内スキー場の活性化を図るため、令和３年度に実施したアンケート結果を踏まえ、県内８スキー場の相互の連携を図るとともに、一体となったプロモーション等を行う。
- ５ 県内の観光協会及び会員企業との連携を強化し、観光データ（観光レポート）の提供や観光資源の掘り起こし、磨き上げなどの支援を行う。
- ６ 国内外からの観光需要の回復を見据え、外部専門人材を活用し魅力的な広域周遊コンテンツの発掘、磨き上げに取り組み、旅行商品の造成につなげる。
- ７ 教育旅行においては、ＪＲ、北陸三県等と連携しながら、北陸新幹線の利便性を積極的にＰＲし、首都圏及び関西圏の教育旅行取扱旅行会社への働きかけを強化するなど誘致拡大に取り組む。